

ふれあい

高花平小学校 学校だより
No. 31
平成 29(2017)年 3月-2
☎ 321-3040, 320-2074

み せい ねん しゅちよう

未成年の主張!!(その2)

よ ぎょう ちく はつびよう つど どうどう
～ 四郷地区 発表の集いで、堂々と・・・

ひと こころ たいせつ ねん
「人の心は大切にしよう」(6年)



わたしは、「言葉・差別問題」が、『命を大切に』というテーマに関わっていると思います。理由は、人のことを差別して言葉で傷つけて、それが原因で命を絶ってしまう人もいますからです。

私は、校長先生の話をお聴いて、『いじめ』について知りました。いじめは、2種類があります。一つは暴力、もう一つは暴言です。どちらも辛い思いをしますが、暴力よりも暴言の方が痛くて苦しいと思います。

話を聴いて、暴言は人の心をえぐり取る感じがするように思いました。私の友だちも暴言を受けて、ひどく悲しんでいたことがありました。いつも笑顔で明るい子が、たった一言の言葉で傷つけられていました。たった一言でも、簡単に人を傷つけることができます。

言葉を放つ方は、その人のことを何かと比較していると思います。差別をされた人は、傷ついて、人と会うのもイヤになってくると思います。それで、最悪、死んでしまう人も出てくると思います。そんなことが、このまま増え続けることになったら、死んでしまった人の家族も、死なせてしまった子も、クラスの友だちも、たくさんの人が悲しみ、涙を流すことになります。そんなことは、イヤです!! だから、人の心・感情を大切にしていきたいと思えます。

私は、友だちが暴言を受けている時に、助けることができませんでした。かばうことができませんでした。今は、それがすごく悔しいです。友だちなのに、いつも一緒にいる子なのに、大事な時だけ見捨ててしまっているような行動をしてしまいました。その子は、ほかの友だちがからかわれていたなら、助けてあげる強い子です。そのような子が、泣いて悲しんでいたから、ちゃんと助けてあげればよかったです。

もしかしたら、私も、気づかないうちに人を傷つけたりしているかもしれません。それをなくすために、言葉に気をつけて、人を助けられるような人間になりたいです。
.....



*当日、Sさんはインフルエンザでお休みでした。急ぎよ、友だちの応援に来ていたNさんが、ピンチヒッターで発表してくれました。ありがとうね!

いよいよ“まとめ”の時期

～「6年生を送る会」が終わり、今週から、「卒業式の会場づくり」、「卒業式の練習開始」、「6年生・奉仕作業」、「来年度に向けた地区児童会・児童会役員選挙」、「大掃除」などがあります。いよいよ **3/17(金)卒業式**・**24(金)修了式・離任式**です。今年度も、あとわずか・・・。

子どものことを第一に考えたい・・・(2)

～ 私(校長)が在学していた、昭和40年代は、高花平小にプールはありませんでした。ベランダで、水を張った洗面器に顔をつける。それが、水泳の学習でした。夏休み前、みんなでバスに乗って、小山田小の防火用水のようなプールで泳ぎましたが、冷たいのなんの。まともに泳いだことがないのに、いきなり足のつかないプールです、楽しむところまではいきませんでした。高花平小に、はじめてプールが出来たのは、昭和53年の夏。ちょうど私が教育実習で、お世話になっていたころです。夏休みには、高花平小『夏のプール開放・初代プール監視員(学生アルバイト)』をさせてもらいました。(※実際は、「プールの監視員をするなら、教育実習をさせてあげます」という条件でした。絶対断るわけにはいきません…)また、3人のわが子もプールを楽しみに通っていたこともあり、他の人より思いいれは強いのかもかもしれません。

『プールが中止になった・・・よし、僕が校長の間に、何とかプールを再開してやりたい。3年間で無理なら、僕が生きている間にこの子(後輩)らのために・・・』と考えると、この3年間、PTAや学校運営協議会のみなさんと話し合いを続けてきました。(※かしこい校長なら、「いやあ、先代の校長の時に、PTAさんが決めたことですからねえ」と、さも残念そうに言うだけでしょうが…)少し話はかわりますが、今年初めまで、学校には「雨の日や水たまりのある時は、運動場に入りません。」という約束がありました。でも、高花平小の運動場は、とても水はけがよく、雨の後でも運動場のほとんどは乾いていて、だいたい遊べるのです。それなのに、「水たまりのある時は✕」となっているのです、シュート板・バックネットあたりに水たまりが残っているだけなのに、遊んではいけないのです、遊べるのに遊べないのです。「今のままの決まりでは、運動場が乾いていても子どもが遊べない。子どもたちのために、決まりを見直そう」と考えました。そして、『運動場の使用について、水たまりが中央部分になく、周囲で遊びに支障がないようなら、遊んでもよい』というように、改めてもらいました。

「一度決めたことなのに・・・」というひとがあります。でも、それが間違っている、子どものためにならないとわかったときには、**勇気をもって立ち止まり、考え直さないと、子どもたちに申し訳ない!!**と、私は思いますが、みなさんはどうですか。

具体的なことは、今後、PTAさんや学校運営協議会で検討していきませんが、「希望しない家庭」には、もうこれ以上何も求めません、安心して下さい。**「希望する子」や「協力するという家庭」は、暑い中ですが監視に当たってもらい《受益者負担》、もし、人数的に不足する、不十分なようだったら、地域のみなさんにも力を貸してもらおうようなやり方(*)で、実現再開**できたらと思います。〈*実行委員会形式：学校づくりビジョンでも提言〉

4月には、再度、PTAさんが「夏休みプール開放についてのアンケート」をしてくれます。**みなさんの力で、また子どもたちに「扉」を開いてやって下さい。**よろしくお願ひします。

～ 先日の学校運営協議会でも、PTA会員さんだけでなく、地域の諸団体・有志も支援し、みんなで「希望する子に対して、夏のプールを提供していこう」という話し合いになりました。くわしいことは、今後さらに協議を重ねていきます。今後、みなさまのご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。**～ 子どもたちのことを第一に・・・～**